

事業計画書

(※市ホームページに掲載予定ですので、できる限りわかりやすく記載してください。)

団体名 壁がなければ実行委員会

1 事業種別	行政提案型・自由提案型
※行政提案型 事業テーマ	(事業種別が行政提案型事業の場合のみ記入) 「お互いさま」があふれるまちづくり ～すべての人が互いを認め合い、支え合い、共に輝きつづける 安心と活力のまち 宝塚～
2 事業名	第4回すべての人の作品展ふらす
3 事業を行おうとした動機・必要性	インターネットの普及、少子高齢化、未婚化・晩婚化、核家族化が進む現代では、人と人とのつながりが希薄になっています。生身の触れ合いや心を通わすことが激減し疎外感を抱く方が増加、友人、家族や地域のコミュニティとの接触がない「社会的孤立」は社会問題になっています。どんなに集団や人付き合いは苦手という方でも人は社会なくては生きられない。心身の健康は遺伝や生活習慣のような生物学的因子だけではなく、社会的因子である社会・経済状況、労働環境、友人・家族・コミュニティなど人との関わりの豊かさによって影響を受けるという考え方も広まり、地域社会の活動・人物などにつなげることで生活を支援し、「身体的・精神的・社会的に良好な状態」の向上を目指す取り組み「社会的処方」が注目されています。その人に合ったつなぎ先を見つけること、その人の持つ力を引き出すこと、その人に合う社会資源が地域コミュニティになくても、一緒に創っていこうという考えで動くことがポイントのようです。 当会はアートを手掛かりとして『様々な立場の方々が、各々の心地良い距離感を保ちつつ、与え与えられ、互いを認め合い共に在れる場づくり』を目指してきましたが、これは正に社会的処方の一つだと確信します。原始時代から人は絵を描いてきましたが、このような人間の根源的なものと思われる営みに基づくアートの触れることは、各自の本来の感覚を呼び覚まし多様な価値観の存在を認め合うものとなる。また、表現手法を学ぶことは多彩なコミュニケーションのあり方を模索するものとなる。更に、アートには表現する喜び、鑑賞する愉しさ、それを分かち合う優しさなど、積極的にでも消極的にでも、直接的にでも間接的にでも、一人ででも複数でも、何らかの関わりを持てる取っ掛かりが沢山ある。拘束がなく関わり方も程度も自由に選べて変えられ、何方でもが、望むときには何時でも、在れる場づくりの手段にアートは適していると思います。 無審査・無賞・無料・対象不問、どなたにも参加していただける自由出展作品公募展「すべての人の作品展」には、2022 年初回開催時より見込みを大幅に上回るご出品があり、一般参加はもとより、高齢者、障がい者等個人及び施設からの応募も多数ありました。高齢の方や障がいのある方が開かれた場で一般の方と肩を並べて作品展示できる機会は市内では皆無、また活動できる場もないとお話を関係者の方々からは伺っています。2023 年度には当宝塚市きずなづくり推進事業補助交付を賜り、作品展示に加え関連ワークショップを幅広く開催、運営ボランティアも積極的に募り、事業の広がりを図ったところ「いろいろな繋がり方が出来るんだと励みになった」と好評を戴きました。そのような中で 2024 年度は、事業の更なる充実を重視し、地域との繋がりを深める活動を行ったところ、「児童の作品を展示して欲しい」など具体的に「子ども」への着目を求める声が上がってきました。

4 事業を行う目的と期待される効果
※審査基準のうち「効果の広域性」「独創性」「継続性」が判断できる内容を含めて記載してください あらゆる方々が共生できる場づくりを目指して、「すべての人が対等に主役である」対象不問の自由出品公募展を開催します。日常生活では閉鎖的空間に引きこもりがち押し込められがちな高齢の方や障がいのある方も、一般の方と何の違いもなく参加くださいます。そこでは、すべての作品が、作者の資質も属する階層もなく、一線上に並びます。このような試みは、互いが多様な価値観を認め合い、すべての人は平等な社会の成員であるという意識を日常生活の中にも根付かせることに繋がると思います。意識をより具体化させる作業として、出展者による出展作品解説と対話鑑賞も、作品展会期中会場にて行う予定です。 更に「アートの力で地域を知り、アートの力で助け合う」をコンセプトに昨年度着手し手応えを感じた「地域アート防災マップづくり」を今年度も継続し、今後シリーズ化していく予定です。マップづくりは地域の資源に着目する作業となり、その特性の発見が愛着に繋がり、住民のこのような意識の変化が自ずと地域を活性化させるのではないのでしょうか。また、防災は住民の方すべてが対象になるので、高齢者から子どもまで、援助の必要な方々も、援助は必要ないと思われる方々も取りこぼしなく拾い上げることが出来、身近な人たちの普段からのコミュニケーションに繋がっていくでしょう。マップの創作に直接に関わる方も関わらない方もマップを見る・使うという必要性から同じ立場となります。シリーズ化して毎年1地域ごとに行うことで市内全域を網羅できます。 アートと防災を媒介とすることで、人付き合いは苦手という方も含めた、すべての市民に、人そのものではなく、先ずはその作品との対峙から始まるというアートの特性により、距離感を持って密着した対面は避けうるコミュニケーションを担保しながらも、防災の持つご近所との連携という親密なつながりも選択でき、人命救助の可能性の高まりも保証できる「共生の場」を約束できると思います。 今後は、より専門的スキルを必要とする展示の比重を軽減し、何方でもが共同して作業に取り組めるマップづくりに比重を置いていくことで、より少ない経費で、より多くの方が主体者となれる活動を目指していきます。また、事業資金調達の為にはホームページの整備を行い広く寄付をお願い出来る体制も整えます。
5 申請までの検討経過
2025年2月28日 「すべての人の作品展」継続を考える会 第3回すべての人の作品展ふらす アート防災マップ追加展示も終えて、参加の方達にも一様に喜んで戴き盛況であったことを受け、継続開催を目指す。 通常活動メンバーに一般参加者の方も含め、今後の事業プラン案など持ち寄り意見交換。 2025年 3月1日 事業内容検討 作品募集内容・数、会場、関連行事案を作成する。 作品募集、ボランティア募集などについて宝塚ボランティアプラザに協力依頼。 2025年3月15日 関連行事について検証 関連行事協力依頼団体を決定。 2025年4月 5日 事業概要決定 事業概要について会員間合意し、具体的開催準備を開始。 2025年5月15日 宝塚市きずなづくり推進事業補助金申請。

6 事業の内容

※実施時期、場所、回数、参加予定人員等を含めて具体的に記載してください。

あらゆる方々が共生できる場づくりを目指して

様々な立場の中で、創作環境に恵まれていない方、創作はしないという方にも参加いただけるよう会場運営のお手伝いも募集、地域コミュニティの充実にも関与し、広く広報する作品展を開催します

○ 作品展

●無審査・無賞・無料・対象不問の自由出品公募による作品展示

1人1点 絵画、書道、写真、CG、彫刻、工芸等平面及び立体作品

◆出展者ギャラリートーク 最終日除く4日間 14:00～15:00

立場の違う3名の出展者に1組となって戴き、ご自身の作品解説をメインに他の作品も参加者と感想など述べ合いながら鑑賞していただく

●地域アート防災マップ展示

住民の方に中心となって制作いただいた特定地域の魅力と防災事項掲載のマップ

◆制作者トーク 11月1日(土) 13:00～14:00

マップ制作のエピソードなどを制作者代表3名の方に披露いただく

2025年10月30日(木)～11月3日(月) 5日間 10:00～18:00

搬入 10月28日(火)16:00～19:15 / 搬出 11月4日(火)10:00～16:00

宝塚市立国際・文化センターギャラリー1・2・3

出品 120名(内、作品解説者 15名) / 会場運営ボランティア 延70名

※来場者 500名(動画視聴 200名 来場不能者等含む)

○ 地域アート防災マップづくり

1地域を取り上げ制作段階からイベント化し、地域コミュニティの充実を手伝う
2025年6月～8月

探索歩き 1日 小浜地区

マップ制作 5日 ふらざこむ1

参加者 延60名 / 制作指導 延6名 / 運営ボランティア 延18名

7 市の担当課との事前協議の経過（事業種別が行政提案型事業の場合のみ記入）

【第1回】 4月17日 地域福祉課へ事前相談。事業内容が行政提案型事業のテーマに沿った内容であるか確認に行った。関連事業の必要性や、地域住民との連携についての説明を行い、事業内容について、テーマに沿った内容であることを双方で確認した。

【第2回】 5月 1日 第1回協議を踏まえ、地域福祉課とメールでの連絡により協議。事業の継続性についての助言を受けた。更に申請書案について、記載内容についての助言、添付書類についての助言を受けた。

【第3回】 5月 7日 地域福祉課に申請書類を修正のうえ再確認を依頼した。

【第4回】 5月15日 地域福祉課と申請書類の最終確認。

8 実施する安全対策
スタッフの怪我等に備えるため、行事保険に加入する。 参加者の個人情報、パスワードで保護したうえで PC 内に保管する。